

まえがき

本研究資料「カットフルーツのサプライチェーンに関する研究 ―国産りんごの加工仕向け拡大へ向けて―」は、農林水産政策研究所のプロジェクト研究「安定的かつ効率的な食料供給システムの構築に関する研究」(平成26年度～平成28年度実施)の研究成果の一部として刊行するものである。

本プロジェクト研究では、近年、単身世帯の増加等を背景に食の外部化が進展し、簡便化志向や低コスト化志向が強まる一方、国内原料や製法にこだわった製品等質的なニーズの広がりも見られる中で、国内産農産物の需要を確保し、的確に供給していくためのサプライチェーンを通じた条件を解明することを目的としている。

平成26年度前半の研究成果として、これから本格的に人口減少局面を迎える中長期的な食料消費の将来の姿について、①エネルギーベースの量的展望と、②食料消費支出の展望という、二つの側面から2050年までの中長期的な将来推計を行った。その結果、国内の食料消費については、量的には飽和の段階を超えて、今後大きく減少していく局面を迎える中で、ライフスタイルの変化、単身世帯の増加等を背景とした、食の外部化という食料消費行動の変化に対応して、これまで輸入品のシェアが高かった加工・業務用需要を、今後本格的に取り込んでいかなければ、国産農畜水産物の市場規模は縮小していく懸念があることが浮き彫りとなった。

今後、ますます海外の農産物との競合関係が強まっていくことが見込まれる中で、特に加工・業務用仕向けで、国内産農産物の需要を確保するためには、主要農産物のサプライチェーンの各段階を通じた課題を明らかにし、その解消に向けたサプライチェーンの再構築に向けた努力が必要となる。

このため、具体的には、主要国産農産物（麦、大豆、野菜、果物等）について、多様な統計・業務データを収集し、流通の諸段階へヒアリングを行うことで、加工品需要の拡大等の近年の消費者ニーズに対応したサプライチェーンの構築を目指す上での課題等について分析している。

本研究はこれらのうち「果物」について、国産果物の需要増大に向けサプライチェーンを通じた課題を調査することを目的に実施した。

近年、果汁等加工品の輸入量が増加する一方、約9割が生鮮用として消費される国産果物の生産量は、1979年の675万トンピークとして現在300万トン前後で推移し、減少傾向が続いている。生産現場では、高齢化が進展する中、次世代への継承が円滑に進んでいないことから、農地の荒廃や栽培面積の減少が進む傾向にある。他方、果物の摂取量は、生活様式や食生活の多様化、簡便化志向や低コスト化志向が進展する中、横ばい傾向で推移している。一人当たりの一日摂取量の平均値は117グラムにとどまっており、果物摂取推進運動における目標量である200グラムには達しておらず、特に、20～40歳代の摂取量が少なくなっている。その一方、若年層は簡便に食べることのできるカットフルーツ等の果

物加工品を好むとともに、コンビニエンス・ストアや駅の自動販売機等での購入機会が増加しているといった変化も見られる。平成27年4月27日に決定された果樹農業振興基本方針においても、このような消費者の嗜好の変化を的確に把握し、利便性、値頃感等の消費者ニーズに即応できるサプライチェーンを構築する視点に立った施策を講じる必要があるとしている。

これらの状況を踏まえ、本研究では国産果物のカットフルーツ仕向け拡大へ向けた課題について、小売やメーカー、研究機関等への詳細な実態調査を基に論じるものである。

具体的には、次の報告から構成される。「はじめに」(八木浩平)では、本稿の背景、課題、目的の整理を通して、具体的な問題意識を提示している。「1. カットフルーツ消費の拡大と原料果物の使用状況」(三澤とあ子)では、主に小売へのヒアリングを基にしながら、カットフルーツ市場のトレンドや原料果物の使用状況を整理する。「2. カットフルーツ製造業者の原料調達の現状」(八木浩平)では、カットフルーツ製造業者によるりんご調達について、求められる品質や価格の調査結果を詳細に論じる。「3. カットりんご製造事業の有する課題と対応状況」(種市豊)では、原料の国産比率の高いカットりんご製造業に焦点を当て、事業の成功要件について考察した。「4. 国産りんごのカットフルーツ仕向け拡大へ向けて」(八木浩平)では、それまでの内容も基にしながら本稿の提示した課題について検討し、国産りんごのカットフルーツ仕向け拡大へ向けて必要な対応を提示した。最後に「おわりに」において、本研究の意義に簡単に触れ、また残された課題について記述した。

本稿の内容が、国産果物の加工仕向け拡大のための各種施策の検討に活用頂くことができれば幸いである。

最後に、本調査にご協力頂いた、食品企業、関係団体、研究・行政機関等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成27年8月

農林水産政策研究所

食料供給プロジェクト研究

安定的かつ効率的な食料供給システムの構築に関する研究チーム